

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	6	学 校 名	静岡県立熱海高等学校	校 長 名	土屋 俊彦
------	---	-------	------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

熱海市内唯一の、かつ東伊豆、三島・田方地域内の小規模高校である特性を活かし、生徒と教職員間の良質な人間関係を基盤とした教育活動、地元自治体や企業等と連携した探究活動や教科横断的な学習等の多彩な教育活動を展開し、生徒の活力を地域の活性化に繋げ、地域社会に積極的に参画し貢献することで生徒の自己肯定感・有用感を高め、学校の魅力化・特色化を実現するとともに、「行きたい学校づくり」への指向を高め、有為な人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
「剛毅・優雅」の校訓のもと、卒業時に身に付けることを目指す内容として、以下の3つの「力」を柱とし、変化する社会に積極的に対応する能力・意欲・創造性を持った人間を育成する。 ・挑む力(主体性を持って挑戦し続ける力) ・関わる力(他者と関わり、社会に参画し続ける力) ・学ぶ力(生涯にわたり成長し続ける力) (1) 自発的に学習し、自主的に判断し、自律的に行動できる人間を育成する。 (2) 民主的な社会の形成者として、敬愛と協力の精神を持ち、誠実に生き、地域の次世代の活性化のために行動できる、心身ともに健全な社会人を育成する。 (3) 小規模高校としての特性を生かし、コース制、総合的な探究の時間や学校設定科目を展開し、幅広い学力層の生徒一人ひとりの能力、適性、進路に応じた教育を推進し、個性と能力の開発に努める。	次のような学びを行います。 (1) 小規模校、小人数教育のメリットを活かしたカリキュラム編成により、「生きる力」「確かな学力」を身に付ける。 (2) 1年次で学校設定科目「キャリアアップ」を開講し義務教育段階での学習内容の基礎・基本から学び直しを行い、基礎学力の定着と中高の学習内容の効果的な接続に繋げる。 (3) 2年次から進学コース（文系・理系）、観光ビジネスコース、福祉コースに分かれ、一人ひとりの進路に応じたカリキュラムにより学ぶ。 (4) 観光ビジネスコースでは「観光ビジネス」、福祉コースでは「介護福祉基礎」等の実習を通じて実践力を身につける。 (5) 総合的な探究の時間では、豊富な地域資源を使った学びを準備し、地元企業・自治体とともに地域課題をテーマに調査し、解決策を探究する。 (6) 3年次に学校設定科目「キャリア・マネジメント」を履修し、探究活動での取り組みを生かした自身の進路実現に向けた活動を行う。	次のような生徒を求めています。 (1) 本校で学びたいという強い意志を持つ生徒。 (2) 3つのコース制（進学・観光ビジネス・福祉）の特色をよく理解している生徒。 (3) 入学後も明確な目的意識をもって、学習や部活動、特別活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒。 (4) 中学校まで取り組んだ探究活動を継続・発展させ、高校生活でも探究活動に意欲的に取り組む意欲を持った生徒。 (5) 進路実現のために努力ができる生徒。 (6) 自分や仲間を大切にする気持ちと公共心を強く持った生徒。 (7) 他者と協働しながら、地域社会や国際社会に貢献しようとする意欲のある生徒。 (8) 高校での様々な体験を通じて個性や長所を伸ばそうとする向上心を持つ生徒。

様式第 1 号

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 生徒理解に基づく丁寧な個別指導を基盤とし、教職員全体での共通理解のもとで指導を行うことで規範意識の向上を図るとともに、保護者と連携して基本的な生活習慣を自己管理していく姿勢・能力を育成する。
- イ 生徒の能力や適性を正確に把握し、個に応じた教育を実践するとともに、教員個々が授業力の向上に努めて魅力ある授業を行い、生徒の学習意欲の喚起や家庭学習の習慣化につなげることで、主体的な学習態度を確立する。
- ウ 3年間を見通した体系的・系統的なキャリア教育を実践し、生徒がビジョンを持って自らの生き方や仕事に対する勤労観・倫理観・価値観について考え、高い目標を掲げて努力し進路実現できる力を育む。
- エ 「総合的な探究の時間」及び「キャリアマネジメント」での3年間の系統的な探究活動により、自身が興味・関心を持った課題について意欲的に探究し、周囲と協働しながら課題解決を図ろうとする実践力を育成する。
- オ 部活動や特別活動の充実に努めることにより、生徒の達成感や自己肯定感、自己有用感を高め、意欲を持って学校生活を送る生徒を育成する。
- カ 教育活動の様々な場面を活用して人間関係づくりを重視した取組を実践するとともに、道徳的価値の自覚を高める指導を通じ、生徒の人格形成を図り、自他を認め、多様性を尊重する態度を育成する。
- キ 読書環境の整備に努め、読書習慣を身に付けさせることにより、豊かな人間力を育成し、生涯にわたる学びの基盤を築き、豊かな人間性を育む。
- ク 生徒の健康管理に対する意識を向上させるとともに、教育相談や特別支援教育を充実させ、生徒の成長・発達を支える相談体制等の充実及び支援機関等との連携に努める。
- ケ 生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう、自ら危険を予測し回避する力を養うとともに、地域から期待される地域支援の構成員としての自覚を高め、奉仕の精神を育成する。
- コ 学校の教育活動の様子を積極的に情報発信し、地域人材・資源を活用して生徒を教育し、地域の活性化に資する人材育成を行い、地域と密接に連携した学校づくりを推進する。
- サ 観光が基幹産業である熱海の特性を踏まえ、国際感覚を身につけた地域社会に貢献できる人材を育成する。
- シ 生徒が教育活動に専念できるよう、学校施設の安全安心を確保し「学びの場」に相応しい教育環境を整備する。
- ス 学校の組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制を構築するとともに、教職員の業務の適正化・効率化を図り、教職員自らが各々のキャリアステージに応じて必要な資質能力を育み、生徒に対して効果的な教育活動を行う環境を整備する。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	日々の生徒との関わりを大切に、個に応じた「温かく」かつ「丁寧」な指導を充実させ、欠席、遅刻、早退の減少を図り、中途退学者数の減少につなげる。	保護者との密接な連携 面接週間の実施・個別面談の実施 新入生の初期指導 欠席、遅刻、早退の原因を分析し、早期対応する。C-learningを活用し、保護者との連絡を密に生徒の変化に即座に対応する。	1日あたりの全校生徒欠席人数5人・遅刻人数2人・早退人数1人未満にする。	教務
	学校全体で前向きに成長を求める雰囲気と環境をつくる。指導基準を統一し、全教員で指導に当たることで生徒の規範意識を高める。	昇降口での声掛け指導を実施。 職員会議などでの職員研修に加え、生徒指導通信を利用して職員・生徒の自己啓発を促す。	チケット指導件数前年比90% 生徒指導件数前年比90%	生徒

様式第1号

イ	知的好奇心を喚起するような魅力ある授業を実践し、育成すべき「資質・能力の三つの柱」の向上を図る。丁寧で分かりやすい授業、家庭学習の習慣化を推進し、基礎学力を定着させる。	学習者（生徒）のことを考えた授業改善 グループワーク、課外授業、実験など多様な授業方法の探究 観点別評価に基づいた教科指導体制の見直し・改善。 学校設定教科科目「キャリア・アップ」での学び直しにおける効果的な教材への刷新 ICT機器（BYOD 端末）の効果的な活用	公開授業週間における授業参観を全ての教員が年2回以上行う。	教務
			教員研修を学期に1回以上行うことにより、授業評価「授業が分かる生徒」75%以上達成させる。	
			生徒の家庭学習時間 30分以上の生徒を 60%達成する。	
ウ	「進路の手引き」を有効活用し、計画的に生徒のキャリア形成のための進路指導を実施する。 地元企業や大学、専門学校等との連携により進路行事を充実させ、進学先、就職先の開拓につなげる。 教職員間で情報共有を図り、生徒が意欲的に、より高い進路希望を掲げて地道に努力するよう、その実現に向けての実力を養成する。	「キャリア通信」を月1回以上発行	「キャリア通信」を月1回以上発行することにより、進路意識の向上 80%以上	キャリア
		地域人材の活用を年1回以上実施 小集団での進路行事を年1回以上実施 保育・介護体験実習を年1回実施（1年） インターンシップを年1回実施（2年） 類型の特色を活かした類型実習を年1回以上実施（2、3年）	進路行事参加率 100% 保育・介護体験実習及び類型実習の参加率 100%、インターンシップ・オープンキャンパスの参加率 100%	
		昼休みや放課後の個別指導 早期からの作文（志望理由書や履歴書）指導 早期からの所作・面接指導 模擬試験の活用を個別に実施	第一志望進路先への合格・内定 85%以上	
エ	「総合的な探究の時間」では、授業を通して自身の興味・関心のある課題を見つけ、その解決に向けて、教員、外部講師、グループの仲間と協働する。	教員の特性を活かしつつ、地域の課題について自治体及び地元企業、大学等と連携し、解決策を構想する。 校内の課題について、生徒が中心となって仲間と協力しながら解決策を考える。	総合的な探究の時間の授業満足度 80%以上を達成する。 分野ごとに校内の課題を1つ以上分析し、解決案を提出する。	教務 キャリア
	「キャリアマネジメント」では、卒業後の進路を見据えた課題の設定や解決方法を身につけ、発信する技術や態度を養う。	縦割りの分野別活動を通して、コミュニケーション力、協調性、情報収集能力、課題解決能力を育成する。 自らの生涯を展望し、進路実現に向けた準備を行う。	「キャリアマネジメント」の授業満足度 80%以上を達成する。 進路決定率 90%以上を達成する。	
オ	生徒が主体的に取り組む環境と雰囲気をつくり、達成感や自己肯定感、自己有用感を育む。	行事前に生徒協議会を実施 行事前後のアンケート実施で生徒の意見を汲み上げる。	学校行事に対する生徒満足度 80%以上	生徒
	部活動や生徒会活動へ意欲を持って参加する生徒の割合を増やし、学校の活性化	運動部合同練習会を実施するなど部活動間で切磋琢磨する環境を作る。	3部活以上の県大会出場 部活動満足度 80%以上	生徒

様式第 1 号

	につなげる。	大会や校外での活動に積極的に参加することで、目標や目的をもって活動できるようにする。		
カ	HR、学年集会、全体集会などの教育活動の様々な場面で、道徳的価値を高める指導を通じ、生徒の人格形成を図り、自他を認め多様性を尊重する態度を養う。	各集会を各学期 1 回以上の実施 生徒指導通信の発行。	学校生活アンケートにおける自己肯定感満足度前年比 100%以上	生徒
		1 年オリエンテーション及び学期に 1 回 S S T 実施。 学校生活アンケート実施。	学校生活アンケートにおける友人関係満足度前年比 100%以上	教育 相談
キ	読書環境を整備し、読書習慣を定着させ、読書量の増大及び質の改善を目指す。	原則週に 1 回、図書室の開放をする。生徒が好む図書室環境へのリニューアルを行う。	図書室の図書貸出数を年間 200 冊以上にする。	図書
		平常授業日に朝読書を毎日実施する。 長期休業中に読書に関する課題を出す。	最近読んだ本がある生徒 100%を達成する。(図書アンケートの実施)	
ク	生徒が心身ともに安心して快適に過ごせるよう、生徒・保護者の健康管理に対する意識を向上させ、安心・安全な教育環境を整備する。	「保健だより」の月 1 回発行 朝食摂取率向上の取組として市の食育担当者と生徒の実態に応じた講座を開催する。	朝食摂取率 80%以上	保健
	特別支援教育の教員研修を実施する。特別支援計画の作成を実施する。個別面談体制の充実を図る。	特別支援可視化シートを活用する。 必要に応じて特別支援計画を作成する。 心理アドバイザー面談を月 1 回実施する。 ケース会議を実施する。	特別支援可視化シートを活用し、生徒の生活・学習環境の向上を意識した教諭 100%達成	教育 相談
ケ	生徒の危険への予測・対応力を育成するとともに、奉仕活動等を通じて地域貢献意欲を高める。	ボランティア活動 奉仕活動 通学路の美化保全	ウルトラ大掃除や通学路清掃など奉仕活動を年 2 回以上実施する。	総務
		防災教育を実施する。 地域防災訓練への参加 地域の伝統行事への参加	地域防災訓練参加率を 50%以上達成する。	
コ	広報活動を充実させ、生徒・保護者・地域に対し、学校の特徴的な取り組みや成果についての理解を広め、生徒募集の増加につなげる。地域との連携を深め、地域に根ざした教育を実践することにより、地域から信頼される学校づくりにつなげる。	中学校訪問（教員・生徒） HP・Instagramの定期的に更新する。 生徒による広報動画・ポスター等を作成する。 中学生にとって、魅力的なオープンスクールや一日体験入学の計画・実施。	中学校訪問（2 か月に 1 回程度）、生徒による広報動画・ポスター等の作成（桃陵祭まで）、HP 更新（週 1 回）、Instagram 更新（週平均 1 回以上）を行う。	教務
			オープンスクール参加者数 50 人以上、一日体験入学参加者数 80 人以上を達成する。	
		P T A 活動の活性化	P T A 総会の参加率を 50%以上にする。	

様式第 1 号

サ	外郭団体等と連携し、生徒がグローバルな視点を身につける場を提供し、積極的な交流により異年齢・異文化・様々な業種への理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。	外部講師を招請した授業実施 教室外（図書室やパソコン室等）や校外での授業実施	各コースにおいて、年間 1 回以上外部講師を招請した授業及び校外学習を行う。 授業アンケートにおける満足度 80%以上を達成する。	教務
シ	生徒や職員が安心して過ごせる教育環境を整える。	施設設備の点検 危険箇所の周知及び改善	施設設備の巡回点検月 1 回 施設設備に係る生徒事故 0 件	事務
ス	学校組織や業務分担の見直し、行事等の教育活動の精選、時間外勤務時間の削減を通して、生徒に対する効果的な教育活動を行う環境を整備する。	役割分担の見直しと教育活動や組織の再点検。 教職員の定時退勤日の設定と確実な実施 部活動ガイドラインの遵守 年次有給休暇の取得促進 時間外勤務時間が多い教員への声掛けと医師による面談の実施	時間外業務時間の対前年比減少 完全閉庁時間(20 時)の徹底 業務改善を意識した教職員の割合 100%(意識調査) タイムマネジメント、業務の効率化・デジタル化、部活動ガイドラインに則った実施等に関する情報提供を年間 10 回以上実施する。 年次有給休暇 16 日取得者率 50%以上	管理 総務